

6年 社会	単元名	天皇中心の国づくり
-------	-----	-----------

1. 単元の目標

世の中の様子、人物の働き、代表的な文化遺産などに着目し、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、このころの世の中の様子を考え、表現することを通して、大化の改新、大陸文化の摂取、大仏造営の様子を手がかりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

- ・児童一人一人が自らの問題意識を持って、必要な情報を収集することができる。
- ・教科書や資料集だけでなく、信頼できる複数の図書資料に触れることで、その時代のイメージをより確かなものにすることができる。
- ・与えられた資料に加えて、館内にある本も手に取って積極的に情報を探し出そうとする態度を養う。

3. 児童について（略）

4. 単元計画（全7時間 本時4／7時間）

時	内容
1	聖徳太子が行った政治について整理するとともに、単元全体の問いを持つ。 「聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、だれが、どのように受け継いでいったのだろうか。」
2	自分たちが立てた問いについて、調べ学習をする。（グループ学習） 【予想される問い】
3	A 大化の改新 「中臣鎌足と中大兄皇子は、どんな方法で国を安定させようとしたか」
	B 大陸文化の摂取 「聖武天皇は、どんな文化を外国から取り入れたか」「なぜ取り入れたか」
4 本時	C 大仏造営の様子 「聖武天皇は、どうして大仏を作ったか。」「その結果、国は安定したか。」
5・6	調べたことをグループでまとめ、発表する。
7	単元全体でわかったことをまとめる。

5. 本時について

(1) 目標

大化の改新、大陸文化の摂取、大仏造営の様子について、図書資料にある絵・写真・記述、地図・年表などを用いて調べることができる。【技能】

(2) 展開

学習活動	学校図書館の関わり
1. 単元全体の問いの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 聖徳太子の国づくりは、だれが、どのように受け継いでいったのだろうか。 </div>	
2. グループごとの問いの確認 A 中臣鎌足と中大兄皇子は、どんな方法で国を安定	○児童が持っている問いの内容、教科書・資料集の内容を予め把握し、関連する資料を集めておく。

<p>させようとしたか。</p> <p>B 聖武天皇は、どんな文化を大陸から取り入れたか。なぜ取り入れたか。</p> <p>C 聖武天皇は、どうして大仏を作ったか。その結果、国は安定したか。</p> <p>3. テーマについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、前時には主に教科書・資料集を使って調べている。本時は学校図書館の資料を活用することで、調べてきた内容を修正したり補充したりしていく。 ・必要な情報があれば、付箋を貼り付けたり、タブレット端末で資料の撮影、文章作成を行ったりする。 ・調べ方やまとめ方について困ったときは、友達や担任・学校司書に相談しながら調べる。 <p>4. 調べた内容をグループ間で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを、1台のタブレットに集約して発表資料の素材とする。 ・不足している情報があれば、さらに調べて追加する。 <p>5. 次時の学習に見通しを持つ。</p>	<p>（担任・司書教諭・学校司書）</p> <p>○古墳時代～奈良時代の図書資料を複数用意することで、児童が1人1冊は手元に置いて調べやすいようにする。</p> <p>○児童が欲しい情報を見つけられない場合は、関連する図書を紹介したり、目次・索引から探すように助言したりする。</p> <p>○書架にある本からも調べてよいこととする。本を探すときは、分類番号に注目させる。</p> <p>○調べた情報を共有するときは、活用した本とそのページを紹介するように声をかける。それにより、他の児童が情報を探す時のヒントになるようにする。</p>
---	--

6 単元全体で獲得させたい具体的知識

聖徳太子の政治	大化の改新	大陸文化の摂取	大仏造営の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子は、天皇を中心とする国づくりを進めるため、遣隋使を派遣して大陸文化を取り入れた。 ・冠位十二階や十七条の憲法を定め、政治の仕組みを整えた。 ・法隆寺を建てて、仏教を広めようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中大兄皇子と中臣鎌足は、勢力を強めた曾我氏を倒し、天皇を中心とする国づくりを進めた。 ・国を治めるための法律もでき、都には日本各地から多くの産物が運ばれ、天皇を中心とする国づくりを支えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖武天皇は、中国へ使者や留学生を送って大陸の政治の仕組みや文化を学ばせた。 ・聖武天皇は、日本に正式な仏教を広めるために鑑真を招いた。 ・このころ我が国には、大陸風の文化が伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都では病気が流行し、地方でも人々のくらしは厳しく、政治が安定しなかった。 ・聖武天皇は、仏教の力で社会の不安を少しずつ国を治めようとして、国分寺を作らせた。 ・さらには、大仏を作って国を安定させようとした。全国から人や物資が集められた。 ・行基は大仏づくりに協力し、すぐれた技術を持つ渡来人の指導と多くの人々の力で完成した。

7 考察（成果や課題等）

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習において、指導者からの資料提供による一方的な受け身の授業にならないような授業を構想した。 ・児童全員で立てた問いを、グループごとに分担して調べ、分かったことを他のグループに伝えるという学習過程を設定した。児童は目的意識と相手意識を持って、主体的に追究しようとしていた。 ・学校図書館だけでなく公共の図書館からも資料を集め、1人1冊は本があるように配慮した。 ・情報カードは、手書きのものとタブレットに入れておいたものを準備し、取り組みやすい方法を選択した。
--

実践事例様式（2）

- ・タブレット端末とアプリ「ロイロノート」を活用することで、情報の分類・整理、発表資料の作成をすることがスムーズにできた。
- ・個別の調べ学習の途中で、グループ内での共有タイムを設けた。児童は調べ方についてお互いにアドバイスをしていた。
- ・調べたことを他のグループに伝える学習過程を設定することで、児童の自己有用感を高めることができた。

【課題】

- ・児童自ら問いを設定したが、授業ではその問いが掲示されておらず、児童のワークシートにも明記されていなかった。そのため、児童の意識の中から、解決すべき問いが消え、問いに合う情報ではなく、「本を読んで驚いたこと、興味がわいたこと」を集めている児童もいた。問いに合う情報を集めるという目的意識が薄れないようにする工夫が必要であった。
- ・グループ内での共有タイムでは、「分かったことと、参考にした本」を紹介し合った。しかしそれよりも、「問いと、調べた答え」を紹介し合うほうがよかった。そうすれば、グループの問いを再確認することもできたとし、集めた情報が問いの答えとして関連する情報かどうかを吟味することができたとも考えられる。

